

かがやき

第16号

2008年10月発行

◆療育の理念◆ 人間愛

基本方針

- 一、私たちは、障害を持った方の人権と意思を尊重し、誠意を持って、命の輝きを大切に療育に励みます
- 一、私たちは、ご家族や関係機関と力を合わせて、ニーズに即した地域療育充実に努めます
- 一、私たちは、互いに信頼し、感謝の心で療育に取り組み、日々研鑽して療育の質の向上を目指します



社会福祉法人 二之沢愛育会 群馬整肢療護園

〒370-3531 群馬県高崎市足門町146-1 電話 027(373)2277 FAX.027(373)2278
E-mail sw@gunmaseishi.com HP アドレス http://www.gunmaseishi.com

10：1の障害者施設等入院基本料達成へ

園長 清水 信三

8月中旬に社会保険事務所に10：1の障害者施設等入院基本料（以下入院基本料）を満たしたことの書類を提出しました。これは今年度差し迫ってしなければならない1番の目標でした。4月からの医療費の改定でも10：1の入院基本料は上げられましたが、13：1は据え置きのみでした。また、肢体不自由児施設、重症心身障害児(者)施設でも約半数以上の施設が10：1の入院基本料をとっていますので、10：1が「世間一般」の施設の常識になってきたといっているでしょう。これが、なかなか達成できなかったのは、看護師不足によるものでした。医師不足、看護師不足などによる医療崩壊が身に迫っているのをいつも感じているのはもちろんですが、毎年多くの看護師が入っては辞めていきひとつも積み上がってこなかったもどかしさを感じていました。なにかひとつキチンとしたモチベーションなり意識改革が必要と思いました。そんな中で今年入職した看護師さん達はほとんど辞めておりません。それどころかいま数人希望者があり面接の予定もあります。大事なことは新たに職場に加わった人達に当園で働くことへのモチベーションを高めていくことです。これは全職員にも同様です。

さて、先日仙台で肢体施設職員研修があり、前拓桃園園長の諸根先生の講義の資料を見せていただきました。昭和25年森田先生が、当園を設立されたとき、板橋の整肢療護園はまだ戦災から立ち上がる前でその当時「整肢療護園」として機能していたのは日本で当園だけであったとのことでした。民営の施設として日本で最初の施設であることは聞いておりました。そのとき日本で唯一の施設として機能していたとは驚くべきことです。森田初代園長の偉大さに改めて敬服した次第です。今当園を利用されている多くの肢体不自由児、重症心身障害児(者)のみなさんに対する責務の大きさに身が引き締まります。今回の10：1達成を一つのバネにさらにより施設にしていきたいと思います。



退園者 志田勝美 作

事務長就任の挨拶

事務長 石川 正克

昭和51年に児童指導員として入職し、病棟では主に保育・学習指導・着脱衣指導・排泄介護等の提供者として、子どもたちと過ごしました。ついたあだ名は「バカボンもしくはカバさん」当時は入園児134人6病棟ありましたが、男性は私一人。おかげで、入浴日は看護師や保育士の先輩に「同性介護が大切なよね」と言われては、所属病棟以外の応援に駆り出され、午後の仕事は入浴介助だけ。夏のプールともなれば、朝一番の幼児のリハビリ時間から夕方高校生の時間帯までプールに入っていたのや、バカボンがサンスクレット語のブッダと言う意味であることを、後日知ったのを懐かしく思い出します。平成7年より、MSW(メディカル・ソーシャルワーカー)や、県の委託事業地域療育等支援施設事業CO(コーディネーター)等の相談員を経験させていただきました。平成16年より支援課長となりましたが、一貫して利用児者の皆様と直接生活を共にする、療育の現場で過ごさせていただきました。平成20年4月に事務長職を拝命し、理事長並びに法人内4施設の施設長の皆様のご指導をいただきながら、今までとは異なる分野にチャレンジしています。これからも皆様のご協力をいただき、微力ですが群馬整肢療護園と二之沢愛育会の発展に寄与したいと思います。



「職場風土改革促進事業」への取り組みについて～より良い職場環境を目指して～ 事務長 石川 正克

当園は、平成20年6月に財団法人21世紀職業財団群馬事務所より「職場風土改革促進事業実施事業主」として指定を受けました。職場風土改革促進事業とは職員の「仕事」と「育児・介護」を両立できる仕組みを整備し、職員が不安なく「仕事」と「家庭」を両立できる環境づくりを目指すものであります。職員のやる気・働きがいを喚起し、私生活の充実、優秀な人材の確保を進めてまいります。本事業への取り組みについては全職員のご理解・ご協力をお願い致します。

平成19年度職員提案制度の結果報告

総務課 鈴木 裕幸

昨年に引き続き法人及び各施設運営において、より良いサービス提供・職場環境づくりのため、職員提案制度が実施されました。今回は16件の応募があり、うち1件が最優秀賞、3件が採用提案賞となりました。最優秀賞に輝いた「働くお母さん(お父さん)を応援しよう」は、事業所内託児所を設置し、職員の子育て支援を行おう!というもので、職員の「仕事」と「家庭」の両立を目指し、安心した職場環境を整えるものであります。様々な難関はございますが、既に設置のために担当職員が奮闘しています。採用提案賞の3件についてはいずれも、利用者様へのサービス向上を目指すものであります。常日頃よりアイデアを練っていただき、今年度の提案募集の際にはたくさんの応募をお待ちしています。

☆最優秀賞…「働くお母さん(お父さん)を応援しよう」

大熊 美子

☆採用提案…「本館廊下の掲示物の仕方」
「館内放送のあり方」
「空地やプリンターを利用したプチ菜園」

関口 いね子
関口 いね子
阿由葉 結美

ひなたぼっこ通信 ～A型通園事業～

A型通園事業 主任 樺澤 知恵子

ひなたぼっこの暑い夏も、やっと終わりました。今年の5月に、エリアが開放になり地域の幅が広がりました。登録者が増えて現在31名になりました。そんなことがあって、夏休みは夏期限定の方の希望者が増えて、にぎやかに過ごす事が出来ました。広範囲に支援できることになり、うれしく思います。ひなたぼっこの中には、歌あり笑いありいろいろ活動をして、にぎやかに過ごしています。毎日を家庭的で明るく楽しく文化的な取り組みが出来るように頑張っていきたいと思っております。是非、ひなたぼっこにお立ち寄りください。

高崎市総合福祉センター～こども訓練室～

こども訓練室 小澤 芳則

開設から2年。相談窓口として、少しは知られるようになりました。今年に入って増えたのは、「友人からの紹介」でいらっしゃる方です。かつて利用されていた方が、こども訓練室を勧めてくれたもので、一定の評価を頂



親子ふれあい企画の様子

いたと(まことに勝手ながら)思い、心の中で小さなガッツポーズを決めています。今後も療育相談の窓口として、さらに信頼を得られるよう努めてまいります。さて、こども訓練室では、発達に関する個別相談や少人数での集団活動の他に、年2回、「親と子のふれあい企画」を行っています。今年は、2月に育英短期大学の学生さんによる「音楽で遊ぼう!」、6月にリトミック研究センター認定指導者の先生による「リトミック教室」を催し、計68名の親子が体を動かしました。次回は12月。わくわくしながら、何をしようか考えています。

榛名養護沼田分校で訪問看護事業がスタート 群馬県立榛名養護学校沼田分校 教頭 小林 洋

今年当校において、医療的ケアが実施される運びとなりました。知的養護学校としては初めてのケースであり、担当の医療機関である群馬整肢療護園からも距離的に遠いなど様々な心配事がありました。群馬県教育委員会(特別支援教育室)のご指導



沼田分校玄関前



と、療護園の清水園長先生をはじめとする関係者の方々のご尽力によってスタートできましたことに深く感謝申し上げます。

保護者の願いは切実なものがああります。在籍中の中学1年生になる生徒は入学以来ずっと母親によって「吸引」が行われてきました。また、今年入学の新入児童も、この事業を受けられることで、沼田分校に通うことが可能になりました。保護者にとっては待ちに待った事業のスタートであり、喜びと期待を寄せているはずで。7月からは看護師さんの勤務も始まり、1名については実際のサービスも始まりました。

学校としても職員全員で研修に励み、安全に十分留意して該当児童生徒が安心して学校生活が送れるよう、療護園・看護師さんと協力して指導にあたっていきたいと思います。

入退園者のご紹介



- ・入園
4月 5日 須川 勇人 様 若草棟
7月 2日 高橋 彩夏 様 ひまわり
- ・退園
4月 4日 反町 綾子 様 若草棟
4月30日 黒沢 由利 様 若草棟
- ・ご冥福をお祈りします
7月12日 山口 裕美 様 すずらん病棟

あゆみ祭のお知らせ

今年も盛大にやります!!



10月25日(土) 10:00 ~ 15:30

パン販売やゲームなどの模擬店、喫茶店やカレーライスなどの販売を行う予定です。入園者の製作物・写真の展示や午後にはアピオにてマンボウクラブの発表、職員バンドの演奏を行います。楽しい企画が盛り沢山です。

皆様のご来園を心よりお待ちしております。